

普及啓発活動実績 (別紙)

平成 20 年 9 月 3 日

青少年等献血ふれあい事業事例

【事例1】

実施センター名 : 北海道赤十字血液センター

実施名称 : サタデー・テーリング

実施日時(期間) : 平成18年4月1日～9月30日 6ヶ月間 毎週土曜日

実施場所 : 北海道赤十字血液センター

協力団体 : 札幌市交通事業振興公社
北海道学生献血推進協議会「トマトクラブ」

実施目的 : 少子化に伴い献血者が減少傾向にある中、将来における献血者確保の安定化を図るために、血液センターの見学を通じて、若年者に献血の重要性や関心を持っていただき、さらに参加者及び家族の方に血液センターの場所を知っていただくことを目的として実施している。

実施内容 : 札幌市営交通が毎年4月から9月まで間、毎週土曜日に市内の小学生4～6年生を対象に市公共施設等を巡るスタンプラリーを開催しており、平成17年より血液センターをその対象公共施設に組み込んでいただき、学生ボランティアグループが説明及び案内役として見学全般の対応を行う。

実施結果 : 参加人数合計3,425名、実施日数25日(1日平均140名)
学生ボランティア75名協力



【事例2】

実施センター名 : 宮城県赤十字血液センター

実施名称 : 献血教室

実施日時(期間) : 平成18年7月27日(木)・29日(土) 10:00~11:30

実施場所 : 宮城県赤十字血液センター 3階会議室

協力団体 : なし

実施目的 : 献血年齢に満たない小学生(主に4年~6年生)と保護者が一緒に、献血の必要性や血液の役割を知っていただき、血液センターを身近に感じていただくことを目的とし、夏休みの自由研究等の一助とする。

実施内容 : (1) けんけつちゃんを使用したスライドを中心に「献血〇×クイズ」を出題しながら講話。(「献血ってなあに?」、「輸血ってなあに?」、「血液の成分」等)
(2) 所内見学(検査課、製剤課、供給課)及び献血バス、血液運搬車。
(3) 配布資料(スライドで使用した資料、愛のかたち献血パンフレット、宮城の献血、献血ルームリーフレット、広報紙「献血いずみ」等)
(4) 質問コーナー、アンケート。
(5) 記念品(ベガッ太くん血液型キーホルダー、メモ帳等)

実施評価 : 若年層に対し、輸血の体験談や献血の重要性を視覚的に説明することにより献血への理解促進が図れた。

実施結果 : 参加者は、7月27日の19組(子供25人)44人と29日の20組(子供26人)46人となり、当センター会議室が両日とも満員となりました。見学終えての感想は好評であった。



【事例3】

実施センター名 : 大阪府赤十字血液センター

実施名称 : 第11回「献血おもしろゼミナール」
～血液センターを見学して、献血や血液のナゾに迫ってみよう～

対象 : 小学生（主に3～6年生）及び保護者（参加費は無料）

実施日時（期間） : 平成18年7月27日（木）・28（金）・31日（月）、8月1日（火）・
3日（木）・4日（金）・7日（月）・8日（火）
○午前の部 10:00～11:30 ○午後の部 14:00～15:30

後援 : 大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

実施目的 : 献血年齢に満たない小学生に対して献血意義の普及と推進を図るため、「愛の血液助け合い運動」キャンペーンの一環として、夏休みの期間中に小学生を対象に血液センター見学会を開催する。見学会を通し献血の必要性と血液センターの役割への理解を深めていただき、献血や血液に興味をもっていただくことを目的とするとともに、小学生の夏休みの宿題（自由研究）を応援する。

実施内容 : (1) アニメーションを使用したスライドを用いて、血液センターの仕事の概要や、献血や血液に関する説明（別添1の内容をパソコンから液晶プロジェクタを使って映写し説明）
(2) 施設見学（採血室、製剤風景、検査風景、供給課）
(3) 質問の受け付け、感想文を書いてもらう
(4) 記念品（近畿ブロックの血液センターが共同で作製した献血啓発グッズ等）の進呈

実施結果 : 参加者 : 総計 1,896人



（参考：過去の実績）

平成11年度 : 140人
平成12年度 : 265人
平成13年度 : 635人
平成14年度 : 1,094人
平成15年度 : 1,418人
平成16年度 : 1,864人
平成17年度 : 2,055人
平成18年度 : 1,896人
平成19年度 : 1,786人

【事例4】

実施センター名 : 岡山県赤十字血液センター

実施名称 : 夏休み「小学生親子血液センター見学体験教室」

実施日時（期間）: 平成19年8月1日（水）～8月3日（金） 3日間
平成19年8月7日（火）～8月10日（金） 4日間
午前と午後に分けて実施（全14回）

実施場所 : 岡山県赤十字血液センター（岡山市いずみ町3-36）

協力団体 : 岡山県、岡山県教育委員会

実施目的 : 青少年等献血ふれあい事業の一環として、県下全ての小学校5・6年生を対象に、「小学生親子血液センター見学体験教室」を開催し、親子で献血や血液に関する知識や興味をもつていただくことを目的とする。

実施内容 : (1)血液・献血の話（講話）
血液の働きや必要性、献血血液の流れ、クイズ
(2)センター施設見学
血液センターの仕事（受付、採血、検査、製剤、血液保管場所）、
献血バスや緊急車の見学

実施評価 : 将来の輸血医療を支えていく小学生に対し、血液の働き・献血の重要性をパワーポイントでの説明、血液センター施設内の見学により献血への理解促進を図れた。

実施結果 : 参加者：681人（内児童435人）参加校：139校



若年者献血セミナー事業事例

【事例 5】

実施センター名 : 北海道釧路赤十字血液センター

実施名称 : 技術部門における「若年者献血セミナー」

実施日時(期間) : 平成 19 年 8 月夏休みの 5 日間 9:00~17:30

実施場所 : 北海道釧路赤十字血液センター

協力団体 : 釧路短期大学、釧路高等専門学校

実施目的 : 少子化献血推進対策の一環とし、献血推進部門の主体形を技術部門から更に支持することで、より専門的な技術系学生の献血の理解と協力が深まるものとする。

実施内容 : (1) 工学的素養を持つ学生に対し、製造部門でのバリデーションの現地体験を中心に採血・供給部門等の研修を行った。
(2) 解剖生理学実習の 1 コマとして栄養士課程学生が、製造部門の全工程を見学し、技術職の担当者が血液成分とその機能について講義を行った。

実施評価 : 献血の次世代の担い手となる 20 歳前後の学生実習を技術部門で積極的に受け入れることは、若年層への献血推進活動として新たな視点への期待にも繋がると考える。

実施結果 : 参加者 : 31 人 参加校 : 2 校
当セミナー実施後、釧路短大において、献血を実施したところ、前回は大きく上回る協力(約 80 名)が得られた。また、同短大食物栄養専攻の学生は献血不適となる貧血改善等に向けた食生活の普及に意識が高まるようになった。



【事例 6】

実施センター名 : 沖縄県赤十字血液センター

実施名称 : けんけつキッズ・サマースクール

実施日時(期間) : 平成18年6月7日(水)～平成19年2月8日(木)

実施場所 : 美東小学校、兼原小学校、伊波中学校、KBC学園
県立八重山商工高等学校他10校

協力団体 : 沖縄県、骨髄バンクを支援する会

実施目的 : 若年層へ血液・献血についての知識を深めることにより献血思想の普及を図る。また、献血実施校については、献血への参加を促すとともに安全な献血を行うことを目的とする。

実施内容 : 骨髄移植経験者による輸血体験談の発表。血液センター職員により血液のしくみ、献血の重要性、献血から供給までの流れ等を説明(パワーポイント使用)

実施評価 : 若年層に対し、輸血の体験談や献血の重要性を視覚的に説明することにより献血への理解促進が図れた。

実施結果 : 参加者: 総計2,351人



(参考: 過去の実績)

平成16年度約2,100人

平成17年度約1,950人

“命”救うボランティアを
県赤十字血液センター 献血教室を開催

県赤十字血液センター
献血推進課の「献血教室」が6月午後、県立宮古農林高校(下地盛雄校長)の三年生を対象に同校視聴覚室で行われた。同センターの大浜鶴

献血推進課長は「献血は命を救うボランティア、血液は人間的に違ふことができないので一人ひとりの協力が必要」と強調した。

同教室は生徒及び職員が深く、安全な献血を実施することを目的に三年前から始まった。県内の高校三年生を対象に年間十校程度で実施している。この日は、午前十一時二十分から伊良部高校でも行われた。

大浜課長は血液の働きや血液の病気について説

明。血液の成分である赤血球、白血球、血小板には寿命があるとし、「県内の需要をまかなうには一日に百八人前後の献血が必要」と説明した。また輸血が必要な場合について、又災害時夜にも大出血▽心臓病・分娩時▽大手術▽血液の病気▽新生児交換輸血▽などを挙げ、「輸血によって患者の病気を治すことができるが、実際に人命を救うのは献血する人」と述べ、献血への理解を協力求めた。

生徒を代表し新聖愛斗夢くんが「白血病で亡くなる人は年間でも多く、CMやラジオでもよく流れている。きょうの話をしっかり受け、若生徒一人ひとりがよく考え、いざという時を逃へない」と呼びかけた。

複数回献血協力者確保事業事例

【事例7】

- 実施センター名 : 東京都赤十字血液センター
- 実施名称 : 「サンクスドナーAED」(献血携帯メールクラブ会員限定「医学講演、赤十字救急法講習会」)
- 実施日時(期間) : 平成19年11月4日(日)午後
平成19年11月17日(土)午後
平成20年3月15日(土)午後
- 実施場所 : 平成19年11月4日(日)武蔵野赤十字病院山崎記念講堂
平成19年11月17日(土)日本赤十字社辰巳ビル
平成20年3月15日(土)日本赤十字社辰巳ビル
- 協力団体 : 日本医科大多摩永山病院救命救急センター(講師派遣)
- 実施目的 : 複数回献血者確保事業の一環として、献血携帯メールクラブ会員向けに、日頃の献血協力に対する感謝の意を込めて実施。会員限定講習会という特別イベントを行い、今後も積極的な複数回献血の協力が得られるようにする。
- 実施内容 : 救命救急担当医の講演により、輸血の大切さや必要性を理解していただいたうえで、心配蘇生法やAED)「自動体外式除細動器」を使用した講習を実施した。
- 実施評価 : 3回の開催案内に対し、応募定員の252名の約5倍の申込があった。協力的な献血者の中には、このような講習会参加の希望が高いことが分かった。献血後の血液の使われ方や大切さがよく分かったと好評であった。
- 実施結果 : 参加者:273人



〈11/4 武蔵野赤十字病院山崎記念講堂〉



〈11/17 日本赤十字社辰巳ビル〉

【事例8】

実施センター名 : 兵庫県赤十字血液センター

実施名称 : 兵庫県栄養士会との連携による献血希望者への栄養相談

実施日時(期間) : (1)平成19年11月6日(月)～平成20年3月31日(月)
 受付時間14時～16時30分
 (2)移動献血会場は3月7日、14日、25日の10時～15時

実施場所 : (1)ミント神戸15献血ルーム
 (2)移動献血会場3カ所(加古川市役所・上郡町・新宮町)

協力団体 : 兵庫県栄養士会・兵庫県・県内市町

実施目的 : 兵庫県栄養士会「栄養ケアステーション構想」との連携により、献血者及び比重不足等の献血不適者を対象とした栄養相談を行うことによって、献血者をはじめとする兵庫県民の健康増進に寄与するとともに複数回献血協力者の確保を目的とした。

実施内容 : 血液センターが相談場所を準備し、県栄養士会が派遣した管理栄養士による献血来場者との対面式の栄養相談を行った。主に献血不適者を対象に「なるほど!献血」冊子などを活用し、食生活の改善を中心とした栄養相談(指導)とした。周知方法は血液センターホームページや献血ルーム受付での案内にてチラシを配布した。

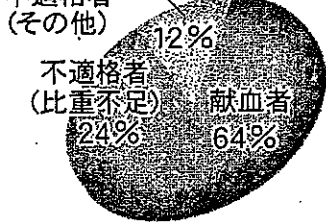
実施評価 : (1)今回は期間が短く、複数回献血につながるかどうかまでの分析はできなかったが、この取り組みを通じて食生活の栄養バランスの大切さを理解してもらうとともに、若年層を中心にまだ献血したことのない方への献血動機づけに繋がるものと思料される。
 (2)県栄養士会との連携によるPR効果は大きく、新聞社2社(朝日・神戸)、NHKラジオ(『ラジオタ刊』)、サンTV(『週刊ひょうご夢情報』)で取り上げられ、冬季血液の確保の一助となった。

実施結果 : 総実施回数:21回 参加者:総数 72人
 一人あたりの相談時間は5～30分程度であり、平均は12～13分。

	10代	20代	30代	40代	50以上	不明	計
相談者数計	0	23	16	11	18	4	72
(内男性)	(0)	(4)	(5)	(4)	(7)		(20)

献血ルームで栄養相談

■兵庫県の女性献血状況
(2006年度)



貧血で「不適格」の女性急増受け

同センターによると、二〇〇六年度に受け付けた献血希望者は、延べ二十四万三千五百七十四人だったが、そのうち四万九千五百五十七人(20%)が事前検査で不適格となった。不適格の理由では、血液の比重鉄分不足が二万七千七百

全国初、あすから神戸で

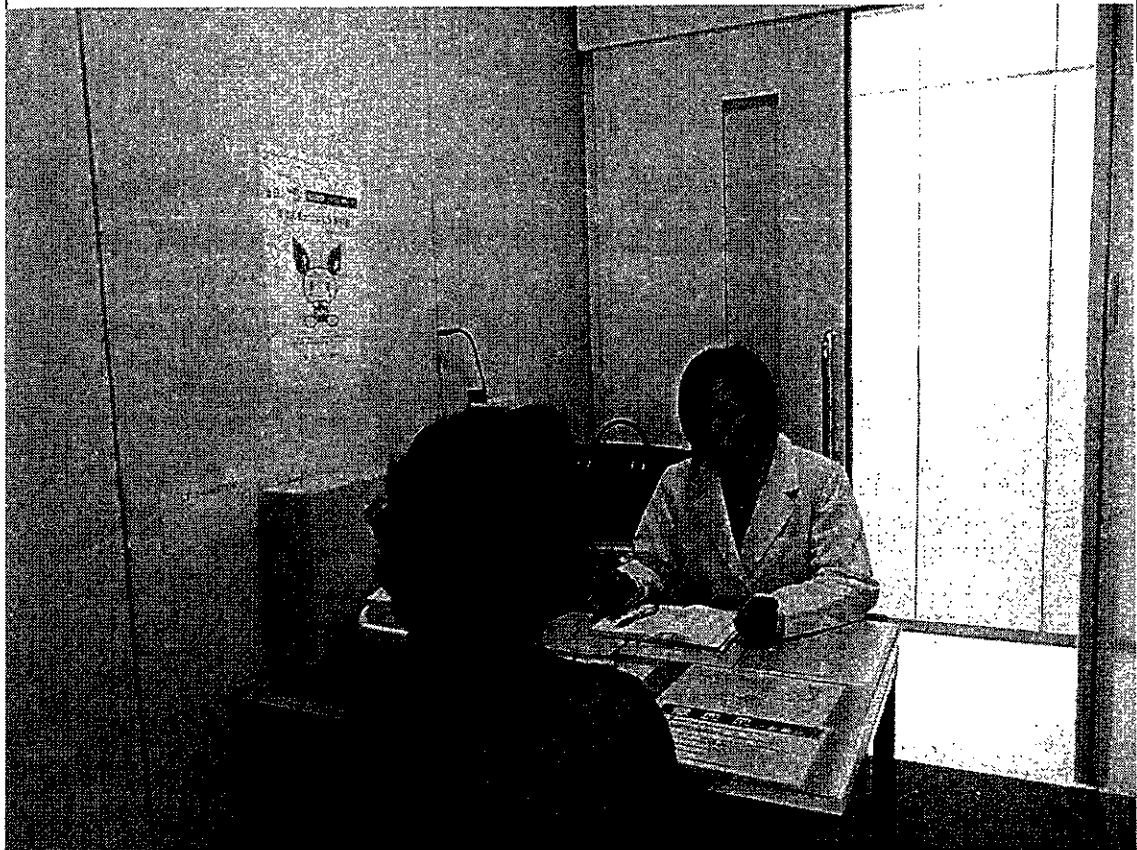
「ダイエットによる貧血などで献血に『不適格』とされる女性が急増しているのを受けて、兵庫県赤十字血液センターと同県栄養士会などが協力し、管理栄養士による献血希望者のための栄養相談を、JR三ノ宮駅前のミニト神戸15献血ルームで五日から始める。女性の健康改善とともに、輸血用血液不足の解消を目指す」といい、両者のこうした連携は全国で初めて。(今泉欣也)

同センターによると、二十九人上った。これには男女差があり、男性全体の1%が比重不足なのに対し、女性にはほぼ四人に一人となる24%。しかも二〇〇年度(14%)から10%も増えた。

なぜ女性の比重不足が多いのか。同センターは「ダイエット志向の高まりや出産後の体形維持などによって貧血気味の女性が増えている」と指摘する。同県栄養士会の仙賀鈴江会長は「食生活など幅広い指導をして、県民の健康増進につなげたい」と話している。同献血ルームの電話は0120・1500・072

栄養相談は、毎週月曜日の午後二時―四時半(祝日と年末年始を除く)に受け付け、希望制で無料。相談時間は一人五―十五分程度の予定。

同センターの藤田嘉秀献血副部長は「兵庫は現在、約二千人分の輸血用血液を他府県に依存しているが、比重不足が改善されれば、『自給』できる」と期待する。また、同県栄養士会の仙賀鈴江会長は「食生活など幅広い指導をして、県民の健康増進につなげたい」と話している。同献血ルームの電話は0120・1500・072



その他広報活動 献血協賛企業活動推進のための事例

【事例9】

実施センター名 : 日本赤十字社 血液事業本部

実施名称 : 献血サポーターWEB サイト

対象 : 献血団体・献血推進団体

実施日時(期間) : 平成20年2月1日(金)より

実施目的 : これまでの、申込書による「献血サポーター」への参加登録方法の他に、インターネットからの参加登録機能を構築することにより、利便性の向上と手続きに係る時間短縮を図り、更なる「献血サポーター」への参加企業・団体の増加を目指す。

実施内容 : 「献血サポーター」に参加いただける企業・団体がインターネットから登録の申込みができる。
登録完了後は、「献血サポーター」ロゴマークを専用サイトからダウンロードして使用することが可能となり、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRすることができる。
また、全国都道府県別にロゴマークを取得した献血サポーター活動参加企業が紹介できる。

今後の取り組み : 当WEBサイト上で、参加団体の紹介を増やしていく。

ホームページ : <https://www.ken-sapo.jp/>

献血サポーター
www.ken-sapo.jp

参加団体 1676 団体
参加人数 115,401 人

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

ホーム 献血サポーターとは 登録までの流れ 参加申し込み 参加団体のご紹介 参加団体一覧 よくあるご質問 関連リンク

日本赤十字社では、「献血」をサポートしていただける、企業や団体を募集しています。

年1回以上の献血に協力または支援しよう！
献血への協力・支援を呼びかけよう！
献血できる体調・健康を維持しておこう！
緊急時に血液が不足した時に積極的に協力・支援しよう！

献血サポーター参加企業・団体募集

みなさんも献血サポーターに参加しませんか

献血に協力している企業・団体の皆様
献血会場の提供に協力している企業・団体の皆様を広く募集しています。

■ 献血サポーターとは？
■ 参加申し込み

▶ 登録までの流れ
▶ 参加団体一覧

参加団体の紹介

株式会社マルハン

創業50周年を機に、社会貢献活動として全従業員が参加する献血活動を平成19年6月より行っており、これまで多数の献血協力いただいています。

プライバシーポリシー お問い合わせ サイトマップ

Copyright kenketsu-sapoporter.All Rights Reserved.

【事例 10】

実施企業名 : 株式会社マルハン

実施名称 : 株式会社マルハン創業 50 周年献血活動

対 象 : 全従業員及びお客様

実施日時 (期間) : 平成19年6月1日～平成20年3月31日

実施目的 : 社会に対する感謝の気持ちを伝えるために、全従業員参加の献血活動を行う。

実施内容 : 全国の店舗の全従業員が、献血バス、献血ルーム等で献血の協力をする。

献血サポーターとして参加し、ロゴマークを使用したポスター (下図) の作製を行い、全店舗への掲示とともに、自社 WEB ページやCMで献血活動を紹介。

実施結果 : 全国 227 店舗の従業員及びその家族の方々約 2,000 名の協力をいただいた。



私達にしかできない
最高の贈り物

マルハンは全従業員で献血に協力します。

現在、全国的に献血量が減少しています。
人間の生命に欠くことのできない血液は人工的に作り出すことができません。
さらに、血液は長い期間にわたって保存することもできないのです。
輸血に必要な献血をいつでも十分に確保するためには、絶えず誰かの献血が必要になります。
マルハンは今年の50周年を迎えるにあたりまして、社会に対する「感謝」の気持ちを伝えるために、私たちにできることを考えました。
それが全従業員10,000人参加の「献血活動」です。

マルハン <http://www.maruhan.co.jp/>

50th ANNIVERSARY **マルハン**

新しいイノベーション

その他広報活動
複数回献血クラブ会員募集のための事例

【事例 11】

実施センター名 : 日本赤十字社 血液事業本部

実施名称 : 携帯電話やパソコンによる献血履歴及び検査成績の照会

対象 : 複数回献血クラブ会員

実施日時(期間) : 平成20年4月15日(火)から

実施目的 : 献血にご協力いただいた複数回献血クラブ(以下「クラブ」という。)会員へ、現在、献血手帳及び献血カードで確認できる献血の履歴や、ハガキによりお知らせしている検査成績(生化学検査、血球計数検査)について、携帯電話やパソコンで照会できる機能をクラブシステムに追加することにより、利便性の向上を図り、更なる同会員の増加並びに複数回献血への協力を推し進める。

実施内容 : クラブ会員は、携帯電話及びパソコンのクラブシステム会員専用ホームページからログインし、「献血記録」を選択すると、「献血履歴」と「検査成績」を表示する。表示項目は次のとおり。

(1) 献血履歴

血液型、献血回数、献血日、
採血センター名、献血種類

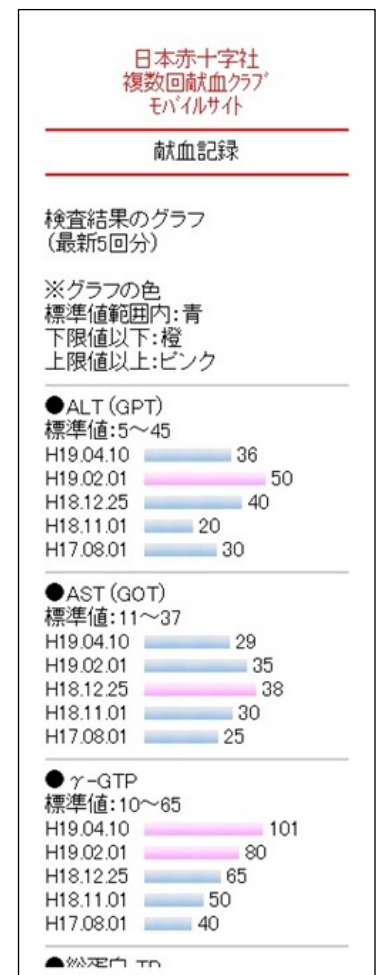
[携帯電話画面]



(2) 検査成績

- ア. 献血時の情報(血圧、脈拍)
- イ. 生化学検査(7項目)
- ウ. 血球計数検査(8項目)

検査成績は、過去5回分を比較できるようにグラフで表示。また、献血後にその献血履歴及び検査成績がホームページに表示されたことのお知らせメールをクラブ会員へ送付する。



【事例 12】

実施センター名 : 日本赤十字社 血液事業本部

実施名称 : 「ありがとう、献血。」WEB映像配信
～ 病気やけがで輸血を受けた患者さんやその家族の声 ～

対象 : 一般の方、献血者

実施日時(期間) : 平成20年4月1日(火)より

実施目的 : 病気やけがで輸血を受けた患者さんやその家族の体験談について、その声を映像でご覧いただき、医療における輸血の重要性を理解し、献血への感謝の気持ちを感じることで、献血へ更なる関心を持っていただき、献血における意欲向上を目指す。

実施内容 : 献血運動推進全国大会での体験談発表について、複数回献血クラブシステムのホームページに掲載した。

平成20年4月の運用開始時は、第41回和歌山大会の岡本さん、第43回福井大会の宮川さん、安永さんの3名の発表を見ることができる。

パソコン上からホームページの各発表者をクリックすると、映像や音声のファイルを再生するためのソフトウェアが起動し映像が流れる。また、携帯電話用のホームページでもダイジェスト版を見ることができる。

ホームページ : <https://www.kenketsu.jp/>

The screenshot shows the Japanese Red Cross Society website. The header includes the logo and name of the Japanese Red Cross Society, along with navigation links for 'HOME' and 'サイトマップ'. A red banner at the top right contains the text '会員ログイン MEMBER'S LOGIN'. The main content area is titled 'HOME > ありがとう、献血。' and features a section titled 'ありがとう、献血。' with a sub-header '病気やけがで輸血を受けた患者さんやその家族の体験談などの映像です。ぜひご覧ください。' Below this, there is a list of speakers from the '献血運動推進全国大会 体験談' section, including '第41回 岡本 崇さん', '第43回 宮川 大さん', and '第43回 安永 真由美さん', each accompanied by a small video thumbnail. A '戻る' button is located below the list. The footer contains the copyright notice 'Copyright©2006-2008 Japanese Red Cross Society. All rights reserved.'

各血液センターで実施した若年層献血確保対策

(平成19年度)

センター名	対策	内容
北海道	1. ティーンズドナー献血キャンペーンの実施 2. 学生サマー献血キャンペーンの実施 3. 献血推進ポスターコンクールの実施	1. 全道全域でラジオ番組と連携し、10代の献血参加を呼びかけるイベントを実施した。 2. 学生主体のサマーキャンペーンを実施した。 3. 献血推進のポスターコンクールを実施した。
青森	1. ハガキ依頼 2. セミナー開催 3. はたちの献血キャンペーン	1. メールと封書による依頼の実施。 2. 大学の学生課を通して参加を募る。 3. 成人式会場において記念品引換券配布した。
岩手	1. 高校生に対する普及啓発 2. 県マスコットキャラクターを活用した普及啓発	1. 県内の全高校3年生に対し県製作の献血普及啓発クリアファイルを配付した。 2. 告知用ポスター・チラシ等各種広報物にマスコットキャラクターを使用街頭献血でマスコット着ぐるみによる広報活動を行った。
宮城	1. 大学・専門学校（仙台市内）における学内献血推進強化 2. はがきによる献血のお礼状送付 3. はがきによる献血依頼	1. 4月に4大学で学内献血キャンペーン実施し、11月～3月は仙台市内献血ルームの近隣専門学校や大学述べ65校を訪問し、ルームへの来場促進を強化。 2. 10代、20代の初回者への礼状を送付。 3. はがきによる献血依頼を行った。
秋田	1. 講演会（またはセミナー）の開催 2. はがきによる献血依頼 3. 献血キャンペーンの実施 4. 高校生に対する感謝状の贈呈（卒業時）	1. 3回講演会を実施。 2. はがきによる献血依頼を行った。 3. 若年者を対象としたキャンペーンを実施した。 4. 在学中に複数回協力した生徒に対し感謝増を贈呈。
山形	1. 若年層献血キャンペーン	1. 平日限定でキャンペーンを実施した。
栃木	1. 高校献血実施（体験） 2. はがきによる献血依頼 3. 大学・短大・専門学校献血実施	1. 献血の体験のため、高校での献血を実施した。 2. はがきによる献血依頼を行った。 3. 大学・短大・専門学校での献血を行った。
群馬	1. Jリーグ（J2）ザスパ草津の献血推進ポスター作製とイベント実施 2. 群馬県学生献血推進連合の献血キャンペーン	1. イベント2回を実施。 2. 学生主体の献血キャンペーンを実施した。
埼玉	1. 彩の国献血フォーラム 2. 出前講座 3. 親子ふれあい献血キャンペーン 4. 卒業献血キャンペーン 5. バレンタイン及びホワイトデー献血キャンペーン	1. 献血思想の啓発が測られた。また、例年継続的に参加される方が増えた。 2. 県内の小・中・高・専門学校へ出前で授業を行い、生徒・児童が血液、献血の話聞くことにより他人への思いやる心“献血思想”の普及啓発が測られた。 3. 採血車を2台配車。献血クイズ等お子さん対象のイベント。親と子で本キャンペーンに参加し、両親が献血している姿をお子さんが見ることで、幼少より献血を身近に感じ将来の献血につながる。 4. 記念品の費用は埼玉県薬務課、県内各校長宛文書の発送は教育局、4万3千枚のチラシを血液Cが作成し発送。 5. 県内の医療機関で輸血を必要としている患者さんへ、応援メッセージを献血者よりいただき、メッセージ集を作製。患者さんやご家族の方、血液を使う医療従事者、これから医療に携わる学生、一般の方がご覧いただくことで献血思想の輪が広がる。
東京	1. ハガキによる複数回献血依頼 2. ラクロス献血協力者に対する複数回依頼 3. 施設見学の実施 4. 大学、短大献血の増回・増班	1. はがきにより献血依頼を行った。 2. ラクロス協会の献血協力者に対し、複数回献血協力を依頼した。 3. 若年者を対象として、施設見学を実施した。 4. 施設見学等で関係者の献血への理解と協力を各日に得られた。大学献血の増会につながった。

センター名	対策	内容
神奈川	1. 大学献血の推進	1. ライオンズクラブ国際協会330-B地区献血推進合同会議において大学献血での協力を依頼した。各大学の授業形態を再確認する事により特定大学では、増班が可能となり、思想普及が出来た。また、学生献血推進を促すため学生に好評あるカップめんを配布する事で安定確保につながった。
新潟	1. 卒業献血を中心とした高等学校での献血実施 2. 学生ボランティアの協力による献血PR	1. 高等学校での献血実施。 2. 学生ボランティアによるPR。
富山	1. はがきによる献血依頼 2. セミナー開催 3. 血液センター見学会 4. 学生献血ボランティアと連携したイベントの実施(サマー献血、クリスマス献血)	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 看護学校にて血小板成分献血推進セミナー開催。 3. 若年者を対象に血液センターの見学を実施。 4. サマー献血、クリスマス献血の実施。
石川	1. 中学生対象の献血ポスターを募集 2. 高等学校における献血指導者研修会の開催 3. 大学の学園祭時に普及啓発を実施	1. 中学生対象に献血ポスターコンクールを実施し、優秀作品について知事表彰を行い、市内のデパート及び献血ルームで展示を行った。 2. 高等学校の教職員を対象とした献血指導者研修会を実施した。 3. 3大学の学園祭の献血実施に併せて、チラシ・ティッシュを配布し普及啓発を行った。
福井	1. 献血推進キャンペーン 2. ハガキによる献血依頼・要請	1. 若年層を対象にキャンペーンを実施。 2. 地元アーティストのライブコンサート開催で若者の来場者が多く、複数回献血、若年層献血推進に貢献した。
山梨	1. 高校献血の全校実施 2. 短大・大学献血の実施 3. セミナー開催	1. 県内全校実施。 2. 県内全短大・大学実施。 3. 県内の高校生・短大・大学生対象の研修会を実施。
長野	1. 体験ルームの実施 2. 献血キャンペーン	1. 若年層への啓発を行うため実施した。 2. 血液の不足する時期にキャンペーンを実施した。
岐阜	1. 高等学校推進 2. 大学・短大・専門学校推進	1. 県作成の啓発用リーフレットを持参し、県下高等学校を訪問。高等学校学内献血ができない学校は、献血ルームでの献血経験をお願いした。 2. 大学、短大、専門学校に対し献血の推進を図った。
愛知	1. 学生献血連盟によるキャンペーン 2. 中部学生リーダー研修会 3. 学内献血実施	1. 学生主体で、春、夏学生キャンペーンを実施した。 2. 学生の育成のため研修会を実施した。 3. 大学、短大、専門学校を対象に学内献血を実施した。
三重	1. 文化祭での啓発パネル展示 2. 若年層献血キャンペーン 3. セミナー開催	1. 文化祭で献血啓発用のパネルを展示し、普及啓発を図った。 2. 400mL献血を年3回実施。 3. 勉強会実施(血液センターにて)
滋賀	1. はがきによる献血依頼 2. セミナー開催 3. 若年者献血キャンペーン(バレンタイン献血) 4. 大学生を母体へ送迎	1. はがき、封書により献血の依頼を行った。 2. 若年層を対象にセミナーを開催した。 3. バレンタインに、若年層を対象にキャンペーンを実施した。 4. 2大学で送迎による献血依頼。
京都	1. 若年層対象のはがきによる献血依頼(おくりもの献血キャンペーン) 2. 学生献血推進協議会によるキャンペーン	1. 20~35歳の若年層に依頼ハガキを郵送した。 2. 街頭献血・献血ルーム前での呼びかけ活動を実施。
大阪	1. はがきによる献血依頼 2. 献血おもしろゼミナール開催 3. 献血イベント(学園祭を含む) 4. 学生400mL献血キャンペーン 5. 初めての400mL・成分献血キャンペーン	1. はがきによる献血の依頼を行った。 2. 若年層を対象に施設見学等を実施した。 3. 学園祭でイベントを実施した。 4. 学生を対象にキャンペーンを実施し、カップヌードルミニ3Pセットを記念品として配布した。 5. 初めての400mL・成分献血に対し、教育委員会よりチラシ配布。また、記念品としてキティバンダナを配布。
兵庫	1. ホット&フレンズキャンペーン	1. 大学学内献血で、記念品にカップ麺を提供した。

センター名	対策	内容
奈良	1. 若年者献血キャンペーン	1. 学生献血推進協議会によるキャンペーンを実施した。
和歌山	1. 学生実行委員会主催キャンペーン	1. 街頭献血においてキャンペーンを実施し。
鳥取	1. 研修、セミナーの開催 2. はがきによる献血依頼	1. 県職員新任採用者へ献血の必要性を理解していただく良い研修となった。 2. 19歳20歳を対象に献血の依頼を実施。
島根	1. はがきによる献血依頼 2. 学内献血の実施	1. はがきによる献血の依頼を行った。 2. 大学等で学内献血を実施。
広島	1. 大学献血推進協議会セミナー 2. 学生献血推進強化	1. 大学生のボランティアのセミナーを開催した。 2. 学生に対する推進を強化した。
山口	1. セミナーの開催 2. DMを活用しダイレクトに依頼する 3. 大学献血の発展と拡張 4. 広報媒体を利用した啓発・啓蒙	1. 若年層を対象としたセミナーを実施した。 2. ダイレクトメールにより献血の依頼を行った 3. 学生の献血に対する意識向上及び各学校での活動の円滑化を図った。 4. 広報媒体を利用し、啓発を図った。
徳島	1. 若年層献血キャンペーン（バースデー献血）	1. 若年層を対象にバースデー献血を実施した。
香川	1. 高校生街頭キャンペーン 2. はがき・電話による献血依頼	1. 香川県と合同実施（費用香川県負担）。高校生が参加して、献血ボランティアを体験する。 2. 事業所での前回献血者へ、依頼はがきにより献血依頼を行った。
愛媛	1. 専門学校・大学校内献血実施の増加 2. 若年者献血キャンペーン	1. 専門学校、大学を対象に学内献血を実施した。 2. 学生赤十字奉仕団による街頭献血を実施した。
福岡	1. ハガキによる献血依頼 2. 若年献血者確保キャンペーン 3. 学生献血推進協議会加盟促進 4. ルーム近隣の専門学校への推進	1. はがきによる献血の依頼を行った。 2. 若年者の確保対策として、友達紹介キャンペーンを実施した。 3. 学生献血推進協議会への加盟促進を行った。 4. 献血ルーム近隣の専門学校に献血の推進を行った。
長崎	1. 献血者確保キャンペーンの実施 2. 学生ボランティア研修会の実施 3. 血液センター見学会の実施	1. 献血者確保のためのキャンペーンを実施した。 2. 学生ボランティアの研修会を実施した。 3. 若年者を対象に血液センターの見学を実施し、見学後には献血をお願いした。
熊本	1. 献血推進用パンフレット配布 2. 学内献血キャンペーン 3. 学内献血時の学生登録 4. 県内高校卒業生へのちらし配布	1. 成人式において、献血推進用のパンフレットを配布。 2. 大学等を対象に、学内献血を実施した。 3. 緊急時に献血のお願いをするため、学内献血時に登録をお願いした。 4. 高校を卒業する生徒を対象に推進用のチラシを配布。
大分	1. ハガキによる献血依頼 2. 高校献血への増車 3. ニュードナーキャンペーン 4. 学域（大学・短大・専門学校）献血時の特別処遇品の進呈	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 高校へ移動献血車を増車した。 3. 新規の献血者募集のためのキャンペーンを実施した。 4. 学校での献血時の記念品を通常とは別のものに変更。
宮崎	1. はがきによる献血依頼 2. サマー献血キャンペーン 3. 学内献血の推進	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 若者を対象としたキャンペーンを実施した。 3. 高校・大学・専門学校で学内献血を実施した。
鹿児島	1. 九州ブロック学生献血推進サミット（H19年本県が開催県）の開催 2. 学生献血推進協の活動費 3. 学校訪問	1. 2. 学生献血推進サミットが本県で開催。献血の普及啓発に努める。 3. 高校を訪問し、400mL献血を主体にした献血を実施した。

若年層献血確保対策の事例

【事例1】

実施センター名 : 北海道赤十字血液センター

実施名称 : 献血広報用ポスターデザインの募集

実施日時(期間) : 平成18年6月下旬～11月末日 約5ヶ月間

協力団体 : 市内デザイン系専門学校(3校)
札幌市献血推進協議会

実施目的 : 献血広報用ポスターデザイン応募を通じて、献血に関する知識や重要性を知っていただき、若者の感覚で表現された作品を使ってポスター等広報資材として活用することにより、若年層に対する献血啓発を行うとともに広く道民への献血普及に繋げることを目的とする。

実施内容 : (1) 作品募集 : 平成18年6月下旬～9月下旬
(2) 選出方法 : 第1回選考 平成18年10月30日
(有識者による最終候補作品6点を選考)
第2回選考 平成18年11月7日～11月14日
(インターネット・携帯電話による一般投票)
(3) 表彰 : 平成18年1月29日「献血フォーラム」で表彰
(4) 活用方法 : ①平成19年度献血実施告知用ポスターに採用
②平成19年度献血記念品用袋のデザインに採用

実施評価 : 本取組は昭和62年より毎年継続して実施している。
平成13年からはホームページを通じてネット投票を実施し、より多くの方々が選出に参加できるようにすることで本取組の周知拡大を図っている。学生に献血のデザインを募集することにより献血啓発にもつながりインターネット投票により広く道民に献血啓蒙が行えた。今後ポスター展などを実施し、より一層の推進を図る。

実施結果 : 応募作品数60点の中から「札幌市献血推進協議会長賞」と「北海道赤十字血液センター所長賞」を選出した。



[札幌市献血推進協議会長賞]



[北海道赤十字血液センター所長賞]

【事例2】

実施センター名：群馬県赤十字血液センター

実施名称：ザスパ草津献血応援スペシャルマッチ ～献血力～

実施日時(期間)：平成19年9月23日(日) 11:00～19:00

実施場所：県立敷島公園陸上競技場及び周辺

協力団体：ザスパ草津

実施目的：群馬県内初のプロサッカーチームであり、群馬県民から熱い期待と応援を受け群馬のシンボリック的存在となった「ザスパ草津」の選手に献血広報媒体(献血推進ポスター出演)になっていただくことにより、県民の献血意識の向上を図る。

実施内容：ザスパ草津ホーム戦ベガルタ仙台戦を献血応援スペシャルマッチとしていただき、献血実施及びPRを行った。(詳細は別添)献血推進ポスターに出演していただいた。

実施評価：会場内には多くの方が来場し、効果的なPRができた。

実施結果：受付者数54名、採血者数37名(400ml:25名、200ml:12名)献血の受付時間は当日の試合時間(16:00キックオフ)を考慮して12:00～16:00とし、15:30過ぎの受付者に対してはトラブルの無いよう、受付時に献血終了が試合開始に間に合わない可能性がある旨を伝えた。)

写真



《実施内容詳細》

＊献血実施

＊ザスパ草津、群馬県赤十字血液センターコラボエコバッグ配布（ルームキャンペーン、当日献血処遇品）

＊ゲートサイン



＊サインボール投げ込み

＊マッチデープログラム掲載

＊電光掲示板PR

＊選手による献血会場周辺献血PR（ポケットティッシュ配布）



＊ザスパ草津植木監督献血への協力



＊ポスター出演選手による献血会場及びスタジアム内音声献血PR《録音》

＊けんけつちゃん（着ぐるみ）、ザスパ草津キャラクター湯友くん（着ぐるみ）、及びキッズによるハーフタイム場内PR

＊ハーフタイム抽選会

＊TVコマーシャル

【事例3】

実施センター名：福井県赤十字血液センター

実施名称：夏の献血キャンペーン2007
「ナナ・イロからの贈物」ライブコンサート

実施日時(期間)：平成19年8月26日(日)【12:00・15:00の2回公演】

実施場所：①福井県赤十字血液センター会議室(12:00)
②ショッピングセンター催事場(あじさいホール)(15:00)

協力団体：福井街角ラジオ

実施目的：複数回献血クラブ会員増加・若年層献血普及

実施内容：①複数回献血クラブ会員限定ミニライブ
血液センター会議室にてクラブ会員限定(事前募集)50名を迎えてミニライブを実施。
②クラブ員+一般(200名)
クラブ会員(事前)募集+一般の方を対象にライブコンサートを開催。(トークで若年層献血推進PR)

実施評価：大型ショッピングセンターの開催で、家族連れなど広い層に対して複数回献血クラブの意義を周知できた。(新聞社取材)クラブ会員へのメリット効果。

実施結果：2回の公演で250名の来場者があり、複数回献血クラブの周知に貢献した。
また、地元女性音楽デュオ「ナナ・イロ」(24歳)が、分かり易く献血へのアピールしてもらい若年層普及面でも効果があった。

写真：



【事例 4】

- 実施センター名 : 石川県赤十字血液センター
- 実施名称 : 中学生を対象とした献血ポスターコンクールの実施
- 実施日時(期間) : 平成 19 年 7 月 1 日(日)～10 月 31 日(水)
- 協力団体 : 石川県
- 実施目的 : 若年層の献血意識を高揚させるための啓発事業を行う。
- 実施内容 : 県内の中学生を対象として募集し、優秀作品について知事表彰を行うとともに、デパート及び献血ルームでこれら優秀作品の展示を行った。
また、優秀作品を県内全域路線バスの車内広告や公立図書館で配布する啓発しおりに活用する。
- 実施結果 : 県内 24 校から 233 点の応募があり、金賞 1 点、銀賞 3 点、銅賞 6 点、佳作 10 点、入選 20 点を選出した。
献血ポスターコンクール優秀作品展を開催し、多く方が来場された。
12/12 ～ 12/18 香林坊大和 8 階
12/19 ～ 1/9 献血ルームラブロ
また、平成 20 年度「愛の血液助け合い運動」の実施に併せて、県内全域路線バス 400 台を対象に 7/1～8/31 まで金賞作品を活用し、献血の必要性を訴えた。

各血液センターで実施した複数回献血者確保対策

(平成19年度)

センター名	対策	内容
北海道	1. ハガキ・電話要請の強化 2. 複数回献血クラブの設置・運営 3. 献血処遇品の変更	1. はがき、電話による献血依頼を強化。 2. 複数回献血クラブの設置・運営 3. 処遇品の変更。
青森	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
岩手	1. メールによる献血要請 2. 封書による献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. 封書により複数回献血協力者へ献血依頼。
宮城	1. メールによる献血依頼 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対しメールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
秋田	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 新規会員の募集 4. 情報誌の発行とリーフレットの配布	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 複数回献血協力者の新規募集活動。 4. 情報誌の発行とリーフレットの配布。
山形	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
福島	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
茨城	1. メールによる献血要請 2. ハガキによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
栃木	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
群馬	1. メール献血協力要請 2. 健康相談の実施 3. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. 複数回献血協力者に対し健康相談の実施。 3. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
埼玉	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
千葉	1. はがきによる献血依頼	1. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
東京	1. Eメールによる献血依頼 2. ハガキによる献血依頼 3. 冬季400mL献血リピーターキャンペーン 4. 献血サポーターキャンペーン	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 献血バスでカードを配布し、次回来場の際に記念品を配布。 4. 400mL献血協力者に再度協力を依頼し、了解いただけた方には、ご自身で葉書に「住所」・「氏名」を記入いただき4ヵ月後に発送を行う。
神奈川	1. はがきによる献血依頼	1. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
新潟	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 献血バス会場献血者の献血ルームへの誘導	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 献血バスでの献血者に対し、次回献血ルームへ来ていただくよう依頼。
富山	1. 複数回献血クラブ員の確保 2. はがきによる献血依頼 3. 献血実施回数の増加	1. 複数回献血協力者に対し、複数回献血クラブへ加入していただくようお願いする。 2. はがきにより複数回献血協力者へ依頼。 3. 年1回献血実施の事業所に対し年2回の実施を依頼。
石川	1. メールによる献血要請	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。
山梨	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
長野	1. メールによる献血要請 2. ハガキによる献血依頼 3. ポスターの配布	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 複数回献血協力確保のため、ポスターを配布。
岐阜	1. はがきによる献血依頼	1. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
愛知	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 愛知県とのタイアップによるキャンペーン実施	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. 固定施設への献血依頼はがき送付、移動採血会場への献血依頼はがき送付 3. 年間2回400mL献血をお願いするキャンペーン実施

センター名	対策	内容
三重	1. メールクラブ会員の募集 2. 電話で400mL献血の募集 3. メールによる献血依頼	1. 複数回献血クラブ会員の募集を行う。 2. 電話により400mL献血協力をお願いをした。 3. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。
京都	1. 推進用ポスター・リーフレットの作製と配布 2. リーフレット郵送による新規登録者募集 3. 新規登録会キャンペーン月間を設けて新規登録者を募集する 4. 健康相談事業の実施 5. 講演会の実施 6. 情報提供メールの送付 7. 献血依頼メールの送付 8. ワンモア献血キャンペーン	1. 複数回献血協力者確保のためのポスター、リーフレットを作成し、配布した。 2. リーフレットを郵送し、複数回献血クラブの新規登録者確保を行った。 3. 新規登録強化週間の実施 4. 複数回献血協力者を対象に、健康相談を実施。 5. 健康に関する講演会を実施。 6. 複数回献血協力者に対し情報提供メールを発信。 7. 複数回献血協力者に対しメールによる献血依頼。 8. カード配付し、再来を促す。
大阪	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
奈良	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 実施場所（企業・団体）の年間回数の増加	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 企業・団体に対し年間協力回数の増加依頼。
和歌山	1. メールによる献血要請の推進 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
鳥取	1. メール、はがきによる献血要請・イベント案内 2. 街頭献血におけるはがき依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メール、はがきにより献血依頼及びイベント案内。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
島根	1. メールによる献血依頼 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
広島	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血要請	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
山口	1. メールによる献血依頼 2. 県職員献血協力者登録者名簿、市・町職員献血協力者名簿の活用 3. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. 献血協力者名簿を作成し、血液不足時の活用をした 3. はがきにより複数回献血協力者に対し、献血依頼。
徳島	1. 推進用チラシの作成と配布 2. 未加入献血者へのDMの発送	1. 献血者全員にチラシ配布し、複数回献血クラブへの登録をお願いした。 2. 複数回献血クラブ未加入者へ、ダイレクトメールにより登録をお願いした。
香川	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
愛媛	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 固定施設における成分献血者へ複数回献血クラブへの登録の推進	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 固定施設の成分献血協力者に対し、複数回献血クラブへの登録をお願いした。
高知	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼	1. 献血者全員にチラシ配布し、複数回献血クラブへの登録をお願いした。 2. 複数回献血クラブ未加入者へ、ダイレクトメールにより登録をお願いした。
福岡	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 講演会の開催	1. 複数回献血クラブへの登録をお願いした。 2. 複数回献血クラブ未加入者へ、ダイレクトメールにより登録をお願いした。 3. 講演会を開催し、複数回献血協力をお願いを行った。
長崎	1. メールとはがきによる献血依頼 2. はがきによる献血依頼	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
熊本	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血依頼 3. 複数回献血キャンペーンの実施	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。 3. 複数回献血協力確保のためノキャンペーンノ実施。
大分	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血要請	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。
鹿児島	1. メールによる献血要請 2. はがきによる献血要請	1. 複数回献血協力者に対し、メールにより献血依頼。 2. はがきにより複数回献血協力者へ献血依頼。

複数回献血者確保対策の事例

【事例 1】

実施センター名：東京都赤十字血液センター

実施名称：献血サポートキャンペーン

実施日時（期間）：募集期間 7月～11月 協力期間 11月～3月

実施場所：都内献血ルーム

実施目的：冬場の全血献血（400mL）者確保

実施内容：7月～11月までの400mL献血協力者に4ヵ月後に再度協力を依頼し、了解いただけた方には、ご自身で葉書に「住所」・「氏名」を記入いただき4ヵ月後に発送を行う。
葉書を持って協力いただいた方には記念品のお渡しする。

実施評価：通常の依頼であると応諾率が約10%であるが、ご自身で書いた葉書が郵送されることにより、応諾率が約3倍に増える。
これにより、冬場の献血者確保の有効な手段と考える。

実施結果：募集人数 30,135名 来場者数 9,875名 応諾率 32.8%
都内23区の献血ルームの応諾率 31.3%
都下の献血ルームの応諾率 37.5%

各血液センターが実施したその他献血者確保対策

(平成19年度)

センター名	対策	内容
北海道	1. 大学での献血実施時の献血者数増加	1. 体育会系グループ(部活動)の献血団体登録(献血サポーター)と血液不足時に応じた献血要請の実施。
青森	1. 電話による献血依頼 2. 400mL献血キャンペーンの実施 3. ポイント制の導入	1. 電話による依頼を行った。 2. 県内の事業所で実施した。 3. ポイント制を導入した。
岩手	1. ハガキによる献血依頼	1. はがきによる献血依頼を行った。
宮城	1. 各市町村が設定する献血日(会場)を見直しいただき、実績が低い場所の実施を止め、より献血者の多い会場へ配車していただくよう勧奨し、効率の良い採血が得られるようお願いする。 2. 近距離市町村を宿泊・移動で実施する等、移動時間の短縮化を図り受付時間を有効なものにする。	1. 平成18年度では、献血バス1台につき平均1.58箇所移動だったものが、平成19年度には1.60箇所とわずかではあるが、向上した。 2. 40回の宿泊献血を実施。その結果、ナイター献血(受付17:00まで)、翌日の早朝献血(受付9:00開始)を展開できた。
福島	1. 成分献血登録者募集用DMの作成配布 2. 定期的成分献血者確保対策(ポイントキャンペーン適用)	1. 成分献血登録者に対し、ダイレクトメールを送付し献血の依頼を行った。 2. ポイントキャンペーンを実施し、定期的な成分献血を依頼した。
栃木	1. 次回の予約推進(固定施設) 2. 午前中及び平日の献血者確保ポイントキャンペーン(適用等)	1. 固定施設での献血協力者に対し、次回の献血予約をお願いした。 2. ポイントキャンペーンを実施し、午前中及び平日の献血者確保を図った。
群馬	1. 次回予約献血の推進 2. 需給の情報を把握し電話による献血依頼	1. 献血協力者に対し、次回の献血協力の予約をお願いした。 2. 電話による献血依頼を行った。
埼玉	1. 次回の予約推進(特に平日) 2. 電話による献血依頼(水曜と木曜の予約率の向上) 3. メールによる緊急依頼	1. 献血協力者に対し、次回の献血協力の予約をお願いした。 2. 水曜日と木曜日の献血依頼を行った。 3. メールにより緊急の献血依頼をおこなった。
東京	1. 都内献血ルームポイントキャンペーン! 2. ほっとキャンペーン	1. 2. 再来促進のため、ポイントキャンペーン、ほっとキャンペーンを実施し、対象者には、特別な記念品を贈呈。
新潟	1. 企業献血の推進 2. 「献血協力カード」の配布	1. 新潟県経営者協会加入企業にアンケートを実施し、新規企業を開拓した。 2. 血液不足時に協力団体に配布し、献血協力を得た。
福井	1. 母体中心：推進キャンペーン 2. 次回PC予約推進 3. 成分献血ポイント制	1. 平日の安定確保のために、キャンペーンを実施した。 2. 献血協力者に対し、次回の献血予約をお願いした。 3. ポイント制を導入し、血小板成分献血の安定確保に貢献できた。
山梨	1. 高校献血の全校実施 2. 短大・大学献血の実施 3. セミナー開催	1. 県内全校の献血実施 2. 県内全短大・大学の献血実施 3. 県内の高校生・短大・大学生対象の研修会を実施
長野	1. 献血ルーム10周年キャンペーン	1. 10周年にあわせてキャンペーンの実施
岐阜	1. 職専免 2. 電話による依頼 3. はがきによる依頼	1. 岐阜県庁薬務水道課より事前に文書にて職専免での協力許可を得、採血日前日の午前中に、該当の施設に血液センターより血小板献血を血液型別、希望人数を伝え、翌日希望時間に車での送迎を行う。 2. 電話による献血依頼を行った。 3. はがきによる献血依頼を行った。

センター名	対策	内容
愛知	1. 固定施設献血者確保におけるポイント制度見直し	1. 平日成分予約者のポイントアップ及び全血献血者へのポイント制導入。
三重	1. 次回の予約依頼 2. 電話による依頼 3. 成分献血登録者の確保	1. 固定施設における献血者に対し、次回献血の予約をお願いする。 2. 電話による献血依頼を行った。 3. 成分献血登録へのお願いをした。
滋賀	1. 電話及びハガキ等による献血依頼 2. 定期及び緊急時の協力団体の拡大 3. 次回の予約推進 4. 新聞折り込みチラシ	1. 電話、はがきによる献血依頼を行った。 2. 近隣事業所に対し、定期、緊急時の献血協力を依頼。 3. ライオンズクラブの協力により、献血者に対し、次回の献血協力を依頼。 4. 新聞の折込により献血のお願い、普及啓発を行った。
京都	1. 期間限定のはがきによる献血依頼 2. 「2回目のおくりもの献血」カード配布 3. 「月火水にお願いキャンペーン」 4. はがきによる400mL献血依頼実施	1. はがきによる献血依頼を行った。 2. 献血初回者に2回目の献血を依頼するカードを配付 3. 血小板献血推進キャンペーンを実施。 4. 献血ルームの献血者対象に、はがきによる400mL献血の依頼を行った。
大阪	1. ハガキ、封書及びEメールで依頼 2. 受付、採血、休憩中に血小板可能者に推進する。 3. 400mL献血増強キャンペーン	1. はがき、封書、メールによる献血依頼を行った。 2. 献血者に、成分献血のお願いを行った。 3. 記念品を通常のものから変更し、400mL献血者の増加を図った。
兵庫	1. 献血ルームにおけるサービスの充実	1. ネイルケア、ハンドマッサージ、スポーツマッサージ、イベント、バレンタインデー献血、すっきり献血キャンペーン、夏季、秋季、冬季キャンペーンを実施した。
奈良	1. 予約制の推進 2. 電話、はがきによる献血依頼 3. メール会員による献血依頼	1. 予約制の推進を図った。 2. 電話、はがきによる献血依頼を行った。 3. メールによる献血依頼を行った。
和歌山	1. 成分献血協力団体拡大 2. 電話による献血依頼 3. 再来献血推進	1. 県庁、自衛隊、海上保安庁等の公共団体の他にJA和歌山損保ジャパン、愛和会、酒販組合、マルハン等の協力団体に依頼し協力を得た。 2. はがき送付者に対し、協力要請の電話依頼を行った。 3. ダイレクトメールを送付し、成分献血の協力依頼を実施した。
鳥取	1. 電話による献血依頼 2. 午前中の献血者確保	1. 電話による献血依頼を行った。 2. 献血ルームのサービスを充実させた。
島根	1. 血小板成分献血者確保 2. 電話 はがきによる献血依頼	1. メールによる血小板成分献血依頼を行った。 2. はがきによる血小板成分献血依頼を行った。
山口	1. 電話による献血依頼 2. 献血協力団体に定期的に依頼 3. キャンペーンの実施	1. 血液不足時に電話要請を行った。 2. 献血協力団体に対して、定期的に献血協力の依頼を行った。 3. 血小板確保対策として、ハロウィンキャンペーン、Red X'mas2007キャンペーン、ゆく年・くる年Thanksキャンペーン、バレンタイン献血キャンペーン2008、ひな祭り献血2008
徳島	1. 市町村巡回地の献血者へのDM依頼	1. 移動献血車で巡回する市町村の献血者に対し、ダイレクトメールにより献血の依頼を行った。
香川	1. 平日の献血者確保 2. 次回の予約推進 3. 電話による献血依頼	1. 平日の献血ルームでのイベント強化。 2. プロバスケット(Bjリーグ) 試合において、献血ルームのPRイベントを実施。 3. 電話で献血依頼を行った。

センター名	対策	内容
福岡	<ol style="list-style-type: none"> 1. ルーム店頭での献血呼びかけ 2. 次回献血の予約 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ルーム店頭での献血呼びかけ。 2. 献血者に次回の献血予約をお願いした。
佐賀	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市町成分献血の日 2. 新聞・チラシ折込 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「成分献血の日」を設け、送迎により献血依頼。 2. 新聞、折込により献血のお願いと普及啓発を行った。
長崎	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「1,000人献血」キャンペーン 2. ライオンズクラブ主催献血 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1000人献血キャンペーンを行った。 2. ライオンズクラブに献血をお願いし、主催による献血を実施していただいた。
大分	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電話、ハガキによる献血依頼 2. 成分献血記念プラスワンキャンペーン 3. 新規成分献血キャンペーン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電話、はがきによる献血の依頼を行った。 2. 午前中の血小板成分献血者確保のためのイベント実施。 3. 新規成分献血者確保のキャンペーンを実施した。
鹿児島	<ol style="list-style-type: none"> 1. 400m L 献血推進用資材の作成 2. 学内献血の強化 3. 献血団体育成講習会の実施 4. ハガキによる献血依頼 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 400m L 献血推進用の資材を作成し、400m L 献血協力のPRを行った。 2. 学校献血を強化し、若年層の確保を図った。 3. 献血団体に対し、講習会を実施した。 4. はがきによる献血依頼を行った。
沖縄	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「初詣献血」の実施 2. 献血担当者との連携強化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年始に初詣献血を実施した。 2. 献血団体等の担当者との連携強化を図った。

その他献血者確保対策の事例

【事例1】

実施センター名：新潟県赤十字血液センター

実施名称：献血への協力に関する企業アンケート実施状況

実施日時(期間)：平成19年9月18日(月)～10月5日(金)

実施場所：社団法人新潟県経営者協会加入企業308社

実施目的：献血者確保の中心的役割を担っている企業献血のより一層の推進を図るため新潟県と連名でアンケート調査を実施

実施内容：社団法人新潟県経営者協会加入企業308社に対し、献血協力に関するアンケート調査を実施(結果は別添参照)

実施評価：県と連名によるアンケート結果を踏まえ、企業訪問を実施した。そのため、企業側の反応も良く、多くの新規企業を開拓することができた。

実施結果：①アンケート結果を踏まえ、10月下旬以降企業訪問を実施

19年度に献血バスを配車した企業	4社
20年度に献血バスを配車予定の企業	11社
(上記4社を含む)	
19年度に献血ルーム等で協力いただいた企業	7社
20年度に献血ルーム等で協力予定の企業	13社
20年度に実施回数を増加予定の企業	2社

②献血普及啓発資料の送付
アンケートで献血への協力が可能と回答した企業(114社)に普及啓発資材を送付した。

アンケート結果：1. 献血への協力状況

協力している	89社(56%)	過去に協力あり	34社(21%)
協力したことがない	35社(22%)	不明	2社(1%)

2. 今後の献血への協力意向

現在協力している企業	今後も協力可能	83社
	実施回数増可能	6社
現在協力していない企業	協力可能	11社
	協力困難	10社

3. 今後の協力可能な内容(現在協力していない企業)

献血バスの受入	15社
近隣にバスが来たときの協力	34社
社員への普及啓発	47社
血液不足時の協力	7社
献血ルームでの協力	10社
その他の協力	1社

【事例 2】

実施センター名 : 新潟県赤十字血液センター

実施名称 : 献血協力カードの配布

実施日時(期間) : 平成 19 年 12 月～平成 20 年 3 月

協力団体 : 新潟県生命保険協会加盟会社、新潟県献血推進協議会加盟の協力団体
県内のライオンズクラブ

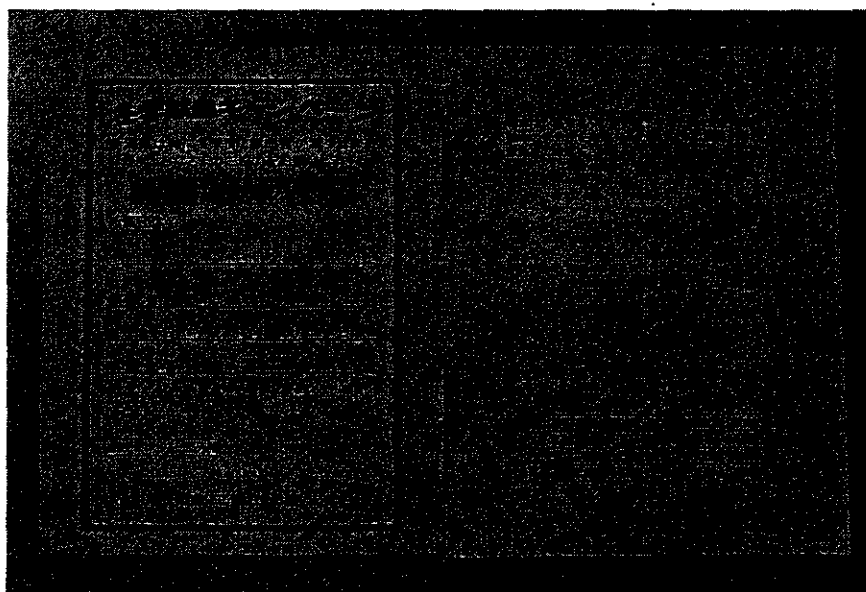
実施目的 : 例年、献血者が減少する冬季(12月～3月)の献血者確保のため、協力団体に「献血協力カード」を配布し、協力要請を行った。

実施内容 : 新潟県生命保険協会加盟会社 20 社、県内のライオンズクラブ
80 団体、新潟県献血推進協議会加盟の協力団体及び一般事業所約 30
団体、合計 約 130 社に対し「献血協力カード」を配布し、協力要請
を行った。

実施評価 : 「献血協力カード」の協力団体への配布は、冬季における献血者確保
に効果があったと考える。また、協力者の回収カードを集計し、協
力団体に結果報告をすることができた。

実施結果 : カード配布枚数 約 7,000 枚 協力者数 370 人(応諾率 5.3%)

写真 :



【事例 3】

実施センター名：岐阜県赤十字血液センター

実施名称：県職員の職専免による血液の確保

実施日時(期間)：平成19年4月～平成20年3月

実施場所：岐阜県赤十字血液センター

協力団体：岐阜県庁及び出先機関

実施目的：血小板献血の確保

実施内容：岐阜県庁薬務水道課より事前に文書にて職専免での協力許可を得、採血日前日の午前中に、該当の施設に血液センターより血小板献血を血液型別、希望人数を伝え、翌日希望時間に車での送迎を行う。

実施評価：迅速に献血者を確保していただき、血小板の型別不足分を補うことができた。

実施結果：年間15回依頼(内全血依頼1回)をし、83名の協力を得た。